

4) 碎屑鉱床の共同探査

現在 西ドイツとオランダはタイ マレーシアの沿岸域で海底砂錫調査を沿岸国と共同で調査し 大きな成果をあげているが わが国では この分野での国際的活動は行っていない。しかし日本は数年前までは世界有数の海底砂鉄採掘国であって 技術的には高いポテンシャルにあった また地質調査所では数年来 表層堆積物調査及び環境汚染底質調査を綿密に行ってきたり 海底堆積物のマッピングに関する技術は低いものではない。したがって 今後 CCOP 地域の海底碎屑鉱床調査に積極的に参加することが深く望まれる。

5) CCOP ならびに関連する国連機関へ専門家派遣の増大

CCOP域内の活動にとって 事務局の重要な地位 あるいは ESCAP などの重要な地位に日本から有能で活動的な専門家を送りこむことは 現在及び将来の日本の立場を考えると重要である。現在 これらの諸機関に数人の専門家が派遣されているが さらに積極的に派遣を

考慮すべきと思われる。

謝辞 会議期間を通じて御世話になった在比日本大使御座氏をはじめ大使館員の方々 在タイ日本大使館参事官黒川剛氏 在比日本大使館一等書記官森清園生氏・国際協力事業団マニラ事務所吉田春茂氏 金属鉱業事業団沢谷勝三氏 ESCAP 鉱物資源課長嶋崎吉彦氏に厚くお礼申し上げます。また多面にわたってご協力いただいた石油開発公社探鉱課長斎藤隆氏 石油資源開発株式会社第一計測部長川村隆氏 帝国石油紛争研究所平井明夫氏 会議の表裏にわたってお世話下さり かつ本稿に御助力された CCOP 事務局専門家河田清雄氏 以上の諸氏に深甚の謝意を表する次第です。なお 最後になりましたが 外務省国連局経済課坂井弘臣事務官(昨年8月まで在タイ日本大使館一等書記官)は 第9回以後13回まで CCOP の年次会合に毎回出席し CCOP の健全な発展のために努力されてきたことを 特に記します。

昨年12月に TAG の議長をつとめた イギリス特別顧問 W. BULLERWELL 博士(IGS)が急逝されました。ここに深く哀悼の意を表します。

・ Pacific Science Association

1. 昭和54年8月20日—9月5日
2. 14th Pacific Science Congress.
3. ソ連ハバロフスク
4. Organizing Committee of 14th Pacific Science Congress

1. 昭和53年10月5日(水)—7日(土)
2. 日本地球化学会 1978年度年会
3. 北海道大学水産学部 函館市港町
4. 日本地球化学会
5. 函館市港町 3-1-1 (☎041) 北海道大学水産学部 代表 西村雅吉 ☎(0138) 41-0131

・日本岩石鉱物特殊技術研究会

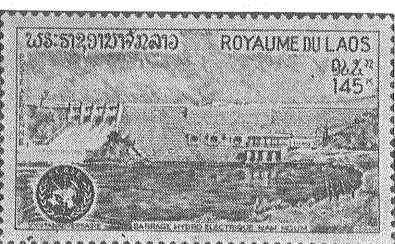
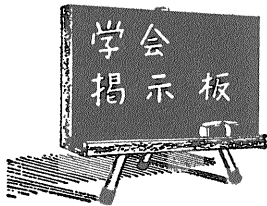
1. 昭和53年10月24日(火)~26日(木)
2. 第21回研究発表会(金属 非金属 構造地質 耐火物等の薄片 研磨片の作成に関する講演会)
3. 岡山大学温泉研究所 ☎682-02 鳥取県東伯郡三朝町山田
4. 日本岩石鉱物特殊技術研究会
5. 神奈川県川崎市高津区久本135 地質調査所内 日本岩石鉱物特殊技術研究会 ☎(044) 866-3171

[注] 1. 開催年月 2. 会合名 3. 会場 4. 主催者
5. 連絡先(掲載順位は原稿到着順)

5. 4. に同じ, 44 Vavilov St. V-333 Moscow, USSR, 117333

この会議には “Solid earths mantle, its mineral and energy resources in the Pacific Ocean Zone” というシンポジウムがふくまれる。また Solid earth 関係の巡検も行われる。

・日本地球化学会



エカフエ 25 周年の記念切手

●1972年3月28日にラオスで発行された多色刷記念切手で ナム・ナム水力発電所の風景の左下に国連マークと 25年記念の文字が入っている。